

インターバンクの声（2017 年 6 月 13 日）

米連邦公開市場委員会 (FOMC) の結果がわかる東京時間 15 日の未明までにはまだ時間があるが、株価や米長期金利の変化くらいしか注目すべき材料がないとあって、早くも様子見を決め込むディーラーが多くなっている。

今回の FOMC については、0.25% の利上げがほぼ確実視されているが、前回利上げされた 3/15 以降は、2.50% 前後だった米 10 年債利回りが、先週後半から昨日にかけては 2.20% 前後で推移している。

長期金利よりも短期金利が高くなるような「逆イールド」の局面もあるので簡単には比較できないが、利上げを織り込んでいるにも関わらず逆に利回りが低下しているようではドルを買い進めづらい。

ドル/円の下値を確認するためにも一旦は 108 円台まで突っ込んでしまったほうが良いと主張するディーラーや投資家も多いが、いざ 108 円台前半までドル売りが進めば、次は 105 円や 100 円が目標になる極端な円高相場に傾く可能性もある。

50 ドル前後で安定しかけていた原油価格も気が付けば 46 ドル前後にまで下落、米株価も高くなり過ぎているとの見方も増えている。円高が進みそうな気配になっているのも確かだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。